

日本産業衛生学会東海地方会

## 地方会ニュース

発行所 日本産業衛生学会東海地方会  
〒470-11  
愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪1-98  
藤田保健衛生大学医学部公衆衛生学教  
室内 電話 (0562) 93-2453  
FAX (0562) 93-3079  
発行責任者 島 正吾

(題字 皿井 進筆)



中国紅木細工鴛鴦型蓋物古来、貴人、文人は身の貴重品を、燃えにくい紅木を利用して、机上飾りを兼ねて製作した。この作品は清朝中期に作られた逸品の一つである (山元正義氏所蔵)

## 謹 賀 新 年



新年あけましておめでとうございます。

東海地方会会員ならびにご関係の皆様には本年もまた健康に恵まれ、希望に溢れたすばらしい年となりますよう、心からお祈りいたします。

さてご承知の通り、日本産業衛生学会では数年来の学会組織活動の充実、活性化への努力が見事に結実し、目下学会専門医制度

に係わる指導医の登録・審査、産業医・産業看護部会の設置と部会活動の一環としての全国協議会の開催(第2回・大阪)、新年度に向かっの学会役員の選出など、いくつかの具体的な実践活動が行われております。

今日、我が国の産業衛生事情はますます複雑多様化し、労働者の健康増進対策の推進と、快適職場作りへの取り組みがいよいよ本格化しようとしています。そしてまた、こうしたすう勢はひろく国際的視野からする管理の実質的な見直しが求められ、それらを基調とした従来の産業衛生活動からの脱皮が積極的に企図されています。

こうした情勢下において、東海地方会を含む全国9ブロックの地

日本産業衛生学会東海地方会長 島 正 吾

方会活動は、産業医、産業看護をはじめメディカル、コメディカルが相互理解を深め、強力な協力体制をとることによって、つねに本学会の原動力として明日への飛躍が期待できると思います。

またこれに対して、日本医師会の認定産業医はまさに2万人を凌駕せんとしており、この両者が緊密に連携することによって、より質の高い地域活動の展開が指向されるものであります。

この際、東海地方会の皆様には、こうした大きな時代の流れと変化に勇気をもって対峙し、また激しい変化に対応するため、時にはあえて火中の栗を拾うような決断が要求されてくることも覚悟しなければなりません。そしてこうした勇気と決断をベースとして、つねに地方会員が丸となって、信ずる所をすみやかに実行に移すよう前向きな姿勢をとることを忘れてはなりません。

勇気、決断そして実行を旗印に、東海地方会が迎えた新しい年を清新の気をもって切り拓き、やがて来る21世紀への手応えをより確かなものとするよう、地方会の全エネルギーを完全燃焼させたいものであります。

学会員の皆様のご健勝とご多幸をお祈りします。

平成4年度東海地方会学会

山田 信也 (名大・医・公衛)



今年度の学会は、国の機関が土曜閉庁をきめたことが幸いし、名大医学部の講義室を利用して、11月7日(土)に開催することができました。参加者は、一般報告では、A会場では物理環境、化学物質に関するものが15題、B会場では作業負担、健康増進に関するものが15題でした。

特別講演は、本年4月の労安法改正が快適作業環境形成の基準の設定を目標としたことをうけて、この改正の準備にあたられた労働省産業医学総合研究所長で名大出身の山本宗平先生に「労働生理学からみた快適職場」をお願いしました。

シンポジウムでは、「国際化時代の産業医学」と題し、主として外国人労働者の問題を取り上げました。演者と報告のテーマでは、国際協力機構の阿部研二先生に、日本の外国人労働者の現状と問題点の総括を、アジア医師連絡協議会の中西泉先生(町谷原病院)には、実際の日常医療の問題点を、東海ゴム工業(株)の小林肇先生、国平敏正先生には受け入れ企業の安全衛生の努力の実際を、国立名古屋病院の三輪太郎先生には社会病としての性格を色濃くしめす外国人労働者の結核の問題点を、名大衛生学教室の久永直見先生にはフィリピンでの国際協力の経験をお願いしました。

東海地方では、全国的にみて外国人労働者の数は多いほうです。何れの県でも韓国人は最多ですが、ブラジルの日系二世が自動車製造や精密機械の関連企業に、フィリピン人がサービス業に多く働いています。外国人労働者が、金儲けだけでなく、日本の生活や文化にふれ、日本人労働者が外国人の労働者と一緒に働き生活し、相互に理解し合うことができるようにするためには、日本の企業が労働力としての受け入れ、彼らの安全衛生や生活を守ることが大切な基礎だと思えます。今回のシンポの内容を、これからの産業衛生の取り組みに役立てて頂ければ幸いです。

今回も、前年の浜松の学会に続いて、医師会の認定産業医制度の研修指定が適用され、出席者の内訳にもそれが反映し、非会員医師の参加者が増えました。今後の学会の企画の上での参考になると考え、別表にそれを記してみました。

平成4年度産衛東海地方会学会出席者数  
(括弧内は単位認定希望者数)

	愛知	岐阜	三重	静岡	不明	合計
合計	142(64)	23(16)	7(7)	7(5)	13(9)	192(101)
大学・研究所	58(16)	7(1)	2(2)	2(0)	1(0)	70(19)
産業医	15(13)	2(2)	4(4)	4(4)		25(23)
勤務医	14(9)	4(3)		1(1)		19(13)
健診機関医	8(7)	2(2)	1(1)			11(10)
開業医	22(19)	7(7)			10(9)	39(35)
衛生管理者	18(0)					18(0)
保健所医	1(0)	1(1)				2(1)
その他	2(0)					2(0)
不明	4(0)				2(0)	6(0)

学会・研究会活動

第8回国際職業性肺疾患会議

久永 直見 (名大・医・衛生)

92年9月14-17日、チェコスロバキアのプラハで開催された。前回(ピッツバーグ)から4年ぶり、従来の「じん肺会議」から今回は「職業性肺疾患会議」に改称された。参加者総数は約350人、日本からは15人であった。演題総数は口演178、ポスター74で、うち約10%がキャンセルされた。石綿関連疾病、人造繊維、けい肺、けい肺合併肺がん、じん肺、有機粉じん、アレルギー、超硬合金、ILOじん肺胸部X線写真分類、作業環境管理等について報告があった。例えば、オーストラリアの悪性中皮腫は、10年間に1459例で、100万人当り年間33.8と世界最高級との報告、米国の断熱作業者17800人の追跡で1975-92年に408例の悪性中皮腫が発生との報告、小型サンドブラストなどを使用した歯科技工士にじん肺が発生したとのチリの報告など、関心と呼ぶ多数の報告があった。

会期中に工場見学ツアーがあり、従業員300人の石綿セメント板と管の製造工場をみせてもらった。石綿肺、肺がん、中皮腫が出ており、今の石綿粉じん濃度は0.2-0.7f/mlとの話であった。

今回の会議は97年にアジア、できれば日本でとの提案があった。

最後に、街の印象。プラハは評判通りの美しい街で往時の繁栄がしのばれた。街の活気はいまひとつで、経済困難が窺われたが、また訪れてみたい所である。

生物学的モニタリング国際シンポジウム

五藤 雅博 (旭労災病院)

平成4年10月12日-15日、生物学的モニタリング国際シンポジウムが京都私学会館で行われた。同シンポジウムは国際労働衛生会議のトキシコロジーセッションとして開催されたもので、今回がその第1回にあたる。同セッションは1990年モントリオールで行われた国際労働衛生会議で発足された。今回は京都大学医学部公衆衛生学池田教授が世話役の中心となり、事務局は同教室におかれた。参加者は世界各地から139名(うち日本人60名)、演題数117題(Lecture 13題、Oral presentation 43題、Poster presentation 57題)であった。東海地方会からは名古屋大学医学部衛生学竹内教授他、愛知県衛生研究所齊藤勳先生他、旭労災病院五藤他より報告がなされた。生物学的モニタリングは世界的にも労働衛生学の中心的課題になりつつあり、各演題で活発な議論がなされた。余談であるが、京都私学会館は別名“YOUANDI”といい、シンポジウムのパンフレットは英語で書かれているため、会場名はすべてこの“YOUANDI”が用いられた。したがって我々は京都に着いて、この“YOUANDI”をめざすことになったのであるが、日本語でどう発音したらいいかわからない。ある人は「ようあんじ」と読み、京都のお寺の一つと考えて、それらしいお寺をさがしたりしたそうである。ところが実際は、“You & I”という意味で、それ以外のなにものでもないとのことであった。なかなかシャレた命名であるが、わかりにくかった。

## 第6回健康度評価研究会

入谷辰男 (トヨタ自動車)

第6回研究会がH4年10月16日(金) エーザイ名古屋支店6Fホールで開催。司会を入谷辰男〔トヨタ自動車産業医〕が担当し、“健康増進システムについて…川崎製鉄本社労政部安全衛生室主査 島田圭介先生”“健康度の考え方と評価の方法…大阪大学医学部環境医学教室教授 森本兼翼先生”に講演を頂き、熱心な質疑応答が行われた。

### 「講演要旨」

川崎製鉄では事後措置の充実をはかるため健康度を実際に使った健康増進システムを運用しており、その開発経緯及び内容についてお話頂いた。健康増進システムは55歳時の標準健康度異常発生率を100にした時の健康度異常発生率を総合健康度指標と想定して開発が進められた。この指標は三つの健康度からなり、臨床検査データから健康度1・2、ライフスタイルデータから健康度3を統計的手法により導き出そうと考えたものであり、健康度1は集団の中での現状の評価値、健康度2は個人の経年的変化、健康度3はライフスタイルの状況を数値化したものである。今回の解析結果からは健康度1以外の健康度2・3について若干の検討課題が残っており今後の解析が進められる予定。

一方森本先生は健康度を身体的健康度、精神的健康度、さらに遺伝的アプローチからの健康度について研究されており、今回はここ10年余の研究成果の内から身体的健康度及び遺伝的健康度についてお話頂いた。森本先生は身体的健康度を“健康ポテンシャル”という概念から説明され、先生の提唱されている八つの健康習慣(朝食・睡眠・栄養バランス・タバコ・運動・酒・仕事時間・ストレス)のチェックにより、それがマイナス方向へ傾く程(ライフスタイルが悪い人程)そのポテンシャルが低下し、成人病をもたらすとされ、さらに遺伝的な側面から染色体異常による癌の発生は、その人のライフスタイルが起因していることの裏付けについて最近の研究成果を説明された。

今回のお二人の先生の講演は今後健康度をさらに進める上での実践的な話であり、大変参考になったと考える。

## 第2回産業医・産業看護全国協議会

小森義隆 (大同病院)

第2回産業医・産業看護全国協議会が、平成4年10月27日、大阪国際交流センターで開催された。全体テーマとして「21世紀をめざした心とからだの健康戦略」を掲げ、午前中は「産業医部会」「産業看護部会」に分かれ、午後は両部会合同での特別講演、合同シンポジウムが行われた。

午前中の産業医部会では「これからの産業医のあり方」に関して、日本医師会、日本産業衛生学会、日本労働組合総連合、日本経営者団体連盟、労働省、おのおのの立場から産業医に対する期待をのべるパネルディスカッションが行われたが、産業医に対するイメージが立場、立場で多少く違っているように感じられた。又大部分の演者は、現在の50人以上の事業所の産業医選任基準では、全

労働者の1/3しかカバーされていないから、それを2/3までひろげるために、30人以上の事業所に変更する必要があることを提案されていたが、たゞ日本経営者団体からは、現在の基準でも産業医の選任率は86%であるから、まず現在の産業医の確保難の現状を解消し、選任率を更に高める必要があることをのべられた。

午後の合同協議会では、特別講演として大阪ガスにおける健康戦略について、実践の状況を報告された。

合同シンポジウム「産業保健におけるチームワーク専門性と統一性」では、専属産業医、嘱託産業医、産業看護職、人事担当者のそれぞれの立場から意見をのべられたが、若い産業医が新鮮な感覚で産業医活動をされている様子の報告や、又小零細企業では、健康診断を行うにも、道路上に車や机を並べて行わなければならない現状を紹介されたのが印象的であった。

## 第21回有機溶剤中毒研究会全国集会

柴田英治 (名大・医・衛生)

10月30日午後から31日午前にかけて三河湾を望む風光明媚な蒲郡の三谷温泉で第21回有機溶剤中毒研究会全国集会が開かれた。本研究会は1972年に発足、産業衛生学会の自由集会として開かれる全国集会とともに秋の一泊二日の全国集会が定例化している。日本産業衛生学会が擁する研究会の中でも最も活発なものの一つである。秋の全国集会が東海地方で開かれるのは83年、87年に続いてのこととなる。今回は参加者50名、一般演題17題、さらに吉田松年先生(名大病態研)、北俊英先生(クロロカーボン協会)から特別講演があった。また、フィリピンにおける有機溶剤取り扱い労働者の現況について、現地の労働安全衛生センターのピラヌエバ医師から特別報告があった。

有機溶剤中毒研究は産業医、大学の研究者、行政、検診機関等多方面からそれぞれの持ち味を生かした取り組みが可能であり、それがこの研究会の活発な活動の原動力でもある。今回の全国集会でも各方面から安衛法改正以来、集中的に検討が加えられている労働現場での生物学的モニタリング関連の演題、基礎的な毒性研究の報告、さらに貴重な症例報告も行われた。また、フィリピンの現状の報告に関連して、特にアジアの労働衛生に対しての知識、技術の交流も話題にのぼった。本研究会で現在取り組まれている全国有機溶剤中毒症例の収集に加えて、今後の新たな研究会活動の方向に示唆を与えるものとなった。

## 日本労働衛生工学会 第32回学会

新谷良英 (大同病院)

日本労働衛生工学会第32回学会がワークピア横浜(神奈川県労働福祉センター)にて平成4年11月12日、13日の両日、学会実行委員長、北里大学衛生学部今宮俊一郎教授によって開催された。1日目は一般講演であり、2つの会場に別れて合計で41題の演題が発表された。一般演題について2、3紹介をします。石綿の測定は位相差顕微鏡法によって行われていますが、この方法は顕微鏡下で石綿繊維を計数するため、計数者の個人差が大きく、精度に問題があると指摘されています。これらの問題を解決するため、石綿繊維の自動

計数をコンピューターを用いて実用化しようという発表が、大阪大学工学部の井上義雄氏らのグループによってありました。機器構成は、位相差顕微鏡、CCDカメラ、画像処理装置、画像モニター、マイコン、ハードディスクなどである。ここでは、主として石綿繊維の画像処理のソフト上の問題点やその解説についての基礎的検討が行われており、次の演題で、実際にこのシステムを石綿繊維の計数に使用した結果が発表された。それによると、この自動計数システムの方法と、関西地区6機関に同一のサンプルを配布して肉眼計数によって行われた結果では、自動計数システムが石綿繊維計数値159本に対して、肉眼計数値は最低77本から最高375本であった。自動計数システムの結果に対する精度については、画像の鮮明度に影響される点などがあるが、十分に対応できるシステムではある。次に、粉じん対策で一番簡単で安い方法は、作業者に防塵マスクを着用させることであるが、マスクのろ過材はその殆どが使い捨てである。最近ではメカニカルフィルター（活性炭素繊維入り）防塵マスクが製造されています。このフィルターは従来の使い捨てフィルターと異なり、何度も再生が出来ることです。メーカーの検討では、溶接ヒュームに対してその捕集効率率は41回再生しても96.4%あり、しかもシリカ粉じん捕集効率は99.3%もあり、国家検定で定められている95%の捕集効率をはるかに越えている結果であった。再生方法は洗濯機で、普通の要領で水を使用して洗濯できる。この発表に対してはフロアーから活発な質疑がおこなわれました。それは、国家検定が保証出来る条件をどのように確認するのか、また、現場の作業者がフィルターを管理するのに問題があるのではないかなど、座長が困るくらいの議論がありました。2日目はシンポジウムが「職場騒音への対応をめぐる最近の動き」と題して行われました。労働安全衛生法の改正により作業環境測定基準の一部改正がおこなわれ、騒音測定は等価騒音レベルで測定が実施されることとなり、騒音をめぐる話題がタイムリーに取り入れられた感じがしました。騒音の測定方法、騒音の実態と各国の許容限度、職場騒音対策、防音保護具の現状等の演題で専門家の話を聞くことができ大変参考になった。

## 第39回産業疲労研究会

井 谷 徹 (名市大・医・衛生)

第39回産業疲労研究会は11月14日(土)、名市大医学部において開催された。参加者は、研究会会員53人(新入会を含む)、非会員15人、計68人にもおよび、東海地方で研究会を開催すると参加者が多いということを実証する結果となった。一般演題は、ストレス指標としての17-K S 硫酸抱合体に関する研究3題と、「快適職場指針からみた疲労」、「労働時間・ライフスタイル・健康」、「航空機旅客乗務員の労働時間に関する検討」、「寒冷暴露時の生理負担」の各演題が発表された。また、質疑応答も、各演題20分の時間割当を大幅に超過せざるをえないほど盛んに行われた。「過労死は予防できるか」と題したシンポジウムでは、「過労死のリスクファクターと予防策」(公衆衛生院：上畑)、「労働現場における過労対策」(労研：酒井)、「ストレスと突然死」(名市大医学部内科：早野)、「過労死危険性増大時の予防策」(中央大：斎藤)について発表が行われ、過労死の予防策を確立するためには、どのような視点での研究が必要

か、具体的なアプローチの方策、当面の課題などについて討議が行われた。その結果、労働条件に関する法的規制の強化なども重要であるが、それ以上に労働現場における自主的な労働衛生問題解決能力を高め、各職場・個人にとってプライオリティの高いリスクファクターを軽減することが過労死予防のためには重要であること、そのためには労働現場と研究者が一体となった取り組みが不可欠であることなどが確認された。

## 第38回職場精神衛生研究会

跡 部 昭 子 (三菱電機・名古屋)

平成4年11月16日、産業貿易会館において日本産業衛生学会東海地方会職場精神衛生研究会と心理相談員会中部支部研修会の共催による講演会が開催され160名の参加を得て盛況裡に終わりました。講師には前京都大学教授の河合単雄先生を招聘し「職場における「こころの処方箋」」をテーマにご講演をいただきました。

まず、開催にあたって職場精神衛生研究会代表として愛知医科大学学長の祖父江先生より今回2つの会が合同で開かれた経緯とメンタルヘルスの重要性のご挨拶につづいて本題の河合単雄先生にご講演を心理相談員会中部支部長森谷先生の司会のもとに伺いました。講演の内容は、平明にして大変有意義なお話でカウンセリングの妙味を味わわせていただきました。

「最近とくに心の問題が注目されてきているが、しかし人間の心などわかるはずがない。何となくわかったような気になるのが一番恐く、わからないという事を知っていることが大切。人間の心は簡単には変れない。しかし世の中が進歩している分だけ適応していかなければならない。——それには無理をしている——心に負担がかりすぎる。——ストレスの蓄積

また、クライアントの受容の困難さを話されました。忠告や助言は余役に立たない——正しいことをいっても余り意味がない——心を開いて聴くということが大切。勉強の仕方はむずかしい——理論と実地訓練のくり返し——プロになろうとするならば長年かけてのすごい訓練が必要である。etc…」以上がご講演内容の一部ですが、実際的カウンセリングのあり方をユーモアを交えながらのわかり易いお話に感銘し、時間のたつのも忘れていました。

## 地方会理事会

第3回理事会 平成4年9月8日(火)名大鶴友会館 出席者23名  
報告事項

本部・事務局からの連絡事項(島・谷脇)

地方会ニュース(第26号)の発行(谷脇)

協議事項

平成4年度東海地方会学会(榊原)

東海地方会誌発刊(森川)

地方会関連研究会

産業看護部会の設置について(島)

第2回産業医・産業看護全国協議会(島)

第6回健康度評価研究会(入谷)

作業負担研究会の再開(島)

日本産業衛生学会東海地方会選挙管理委員会の設置(島)

第4回理事会 平成4年11月24日(火)名大鶴友会館 出席者28名  
報告事項

本部・事務局からの連絡事項(島・谷脇)

研究会・研修会からの報告事項  
 平成4年度東海地方会学会（榊原）  
 第21回有機溶剤中毒研究会全国集会（竹内）  
 第38回職場精神衛生研究会（森川）  
 第39回産業疲労研究会（松本）  
 第6回健康度評価研究会（飯田）  
 日本産業衛生学会東海地方会役員選挙結果（森川）

協議事項

東海地方会誌の発刊（森川）  
 「第9回産業医、産業保健婦、産業看護婦、衛生管理担当者のための研修会」（岩井）  
 地方会ニュース新年号（第26号）の発行（岩井）  
 地方会関連研究会  
 頸肩腕障害（第32回）・腰痛（第37回）合同研究会（小野）  
 日本産業衛生学会第20回職業性アレルギー研究会特別企画（島）  
 その他  
 日本産業衛生学会 産業看護部会「産業看護フォーラム」の創刊（荻田）  
 皿井 進氏を名誉地方会長・学会名誉会員、井上 俊氏を学会名誉会員に推挙（島）

これからの諸行事予定

第20回職業性アレルギー研究会特別企画

日時：平成5年1月30日（土） 13：30～16：30

場所：愛知県医師会館9階大ホール

後援：愛知県医師会

プログラム：

特別報告

研究会20回の歩みを振り返って  
 野村 茂（労働科学研究所）

学術講演

免疫アレルギー学的視点からみた肺結核の現状  
 青木正和（結核予防会結核研究所長）

花粉症の予防と治療  
 奥田 稔（元日本医科大学教授）

間質性肺疾患とアレルギー  
 山本正彦（名古屋市立大学教授）

世話人：島 正吾（藤田保健衛生大学教授）

第9回 産業医・産業保健婦・産業看護婦・衛生管理担当者のための研修会

日時：平成5年2月19日（金） 10：00～16：20

場所：メルパルク名古屋（郵便貯金会館）  
 名古屋市東区東桜1-14-13（TEL (052) 951-7611）

プログラム：

10：00～10：20 地方会長・事業部長挨拶  
 10：20～11：50 講演「作業関連疾患（Work Related Diseaseの健康管理）」  
 井谷 徹（名市大・医・衛生）  
 11：50～13：00 昼食休憩  
 13：00～14：00 講演「エイズと産業衛生 -現在と将来-」  
 大井 玄（東大・医学研究科・国際保健学）  
 14：00～14：20 コーヒーブレイク  
 14：20～16：20 パネルディスカッション「快適職場の形成をめざして」

司会 滝川 寛（三重大・医・衛生）

パネリスト

「快適物理化学的環境」  
 大門俊宏（三菱油化アクトリサーチ・環境技術部長）  
 「開発設計技術者の職場環境」  
 天田政章（三菱電機・静岡・総務部勤務課長）  
 「人にやさしい職場環境」  
 小出 勲（トヨタ自動車安衛管理部主担当員）  
 「心身のリフレッシュ」  
 後藤 勤（岐阜県労働基準協会連合会常務理事）

特別参加 チャック・ウイルソン（八神製作所健康開発室）  
 16：20 閉会の挨拶

第6回職業性肺疾患研究会

開催日時：平成5年2月20日（土）13：00～16：30

場 所：シャンピアホテル名古屋（中区・錦）

世話人：吉野貞尚（名大・医・衛生）、立川壮一（藤田保衛大・医・内科）、久永直見（名大・医・衛生）

第66回日本産業衛生学会

会 期：平成5年5月6日（木）～9日（日）

会 場：学会 パシフィコ横浜（5月6日～8日）  
 神奈川県横浜市西区みなとみらい（桜木町）

特別研修会 ゆうぼうと（5月9日）

東京都品川区西五反田（五反田）

学 会 長：高田 勲（北里大・医・公衛）

東海地方会役員選挙結果

森川 利彦（日本産業衛生学会東海地方会選挙管理委員長）

有権者数506名、投票数298票（内無効票3票）

東海地方会長 島 正吾

「50音順・敬称略」

本部理事 岩田 弘 敏 小 森 義 隆 島 正 吾 清 水 善 男 竹 内 康 浩

本部評議員

(愛知)	青 山 光 子	飯 田 英 男	井 谷 徹	出 原 洌	伊 藤 圓
	伊 藤 宜 則	井 上 俊	岩 井 淳	荻 田 佳 子	小 篠 築
	小 野 雄 一 郎	柏 木 時 彦	柏 木 正 雄	加 藤 昌 平	加 藤 竹 男
	栗 田 秀 樹	小 西 美 智 子	小 林 章 雄	近 藤 正 人	五 藤 雅 博
	神 原 久 孝	佐 賀 務	佐 久 嶋 順 平	皿 井 進	柴 田 英 治
	末 次 勸	杉 山 龍 三	祖父江 逸 郎	武ノ上 庸	谷 脇 弘 茂
	土 屋 博 信	徳 留 信 寛	服 部 於 菟 彦	早 川 律 子	久 永 直 見
	堀 部 博	松 本 忠 雄	宮 尾 克	村 山 尚 子	森 川 利 彦
	山 田 和 生	山 田 信 也	山 田 琢 之	山 中 克 己	山 元 正 義
	山 本 正 彦	吉 田 勉	吉 野 貞 尚	鷲 野 昌 夫	渡 辺 清 博
(静岡)	井 上 潔	臼 田 多 佳 夫	鎌 田 隆	近 藤 順 一 郎	後 藤 猛
	斎 藤 俊 二	竹 内 宏 一	寺 岡 鎮 雄	袴 田 章 二	長 谷 川 弘 道
(岐阜)	井 田 龍 三	加 藤 保 夫	河 合 信	永 谷 照 男	橋 本 郁 夫
	花 井 喜 一 郎				
(三重)	石 川 昭	坂 本 弘	杉 浦 静 子	滝 川 寛	橋 本 哲 明
	山 内 徹				

会員の叙勲・表彰

- 勲三等旭日中綬章 **井上 俊**  
(名大名誉教授)
- 紫綬褒賞 **山田 和生**  
(名鉄病院長)
- 緑十字賞 **祖父江勝昭**  
(日本ガイシ安全衛生課主任)

会員の移動

新入会員 17名

- 愛知 山本 隆 (大山田診療所)、溝口良順 (藤田保衛大)、宇佐美郁次 (旭労災病院)、黒木秀明 (旭労災病院)、今泉 修 (三河保健予防協会)、杉本高夫 (三河保健予防協会)、堀部良宗 (藤田保衛大坂文種病院病理)、竹田真次 (三河保健予防協会)、加藤道哉 (カトウ歯科)、水野克己 (半田保健所)、杉田誓子 (名古屋市医師会健診センター)、池内玲子 (名古屋市医師会健診センター)
- 三重 明慶憲哉 (あい六歯科医院)、前田尚武 (三菱化成四日市)
- 静岡 足立扶佐子 (本田技研浜松)、青木伸雄 (浜松医大・衛生)、松島 肇 (浜松医大・衛生)

転出会員

大竹康彦 (愛知→仙台)

転入会員

川上憲人 (東京→岐阜)

退会会員

愛知 村上多恵子、稲垣義範

編集後記

明けましておめでとうございます。今年も無事に新年号を発行することができました。これもひとえに学会員のご協力のおかげと編集委員一同感謝致しております。また今回は特別寄稿として近藤東郎理事長の玉稿をいただくことができました。これも当地方会ニュースが理事長にも評価していただいている証として大変感激しております。最近では臨床系の学会でも産業医学への取り組みが行われるようになりました。学問的に幅が広がることは望ましいことです。大いなる発展を期待したいものです。毎回若手産業界に原稿をお願いしておりますが、頑張っている姿が彷彿として後継者不足といわれる産業界にも明るい見通しができました。

(五藤 雅博)

次回発行 平成5年5月1日

編集責任者 岩井 淳 (全日本労働福祉協会)

編集委員 (五十音順)

- 柏木時彦 (柏木事務所) 加藤保夫 (岐阜県産業保健センター)
- 五藤雅博 (旭労災病院) 後藤 猛 (ヤマハ健康管理センター)
- 小森義隆 (大同病院) 竹内康浩 (名大)
- 谷脇弘茂 (藤田保衛大) 中川祐子 (東芝三重)
- 久永直見 (名大) 森川利彦 (三菱電機名古屋)

広範囲経口抗菌製剤 健保適用

**タリビッド<sup>®</sup>錠**

Tarivid Tarivid Tab. (オフロキサシン錠)

第一製薬株式会社

経口用セフェム系製剤

**セブゾン<sup>®</sup>カプセル** 100mg / 50mg

CFDN (日投基:セフニルカプセル) 健保適用

フジサワ

持効性Ca拮抗剤(塩酸バルニジピン徐放製剤) Hypoca

**ヒポカ<sup>®</sup>カプセル** 5mg / 10mg / 15mg

山之内製薬

幸せはひとりひとりの健康から

**ファイザー製薬株式会社**

東京都新宿区西新宿2-1-1 〒163

高血圧・冠動脈疾患・心不全時血圧治療剤

**リスミック<sup>®</sup>**

RISUMIC

リスミック錠10mg **大日本製薬**

賀正

平成五年元旦

Ca・骨代謝改善 $1\alpha$ -OH-D<sub>3</sub>製剤

**アルファロール<sup>®</sup>液カプセル**

ALFAROL

中外製薬

HMG-CoA還元酵素阻害剤

高脂血症治療剤

**メバロチン<sup>®</sup>**

三共株式会社

**ヘキストール<sup>®</sup>錠**

(一般名:プロベントフィン) ●健保適用

脳梗塞後遺症、脳出血後遺症、脳動脈硬化症に伴う意欲低下、情緒障害の改善に。

Hoechst **ヘキストジャパン株式会社**

**日本ゲリンガーインゲルハイム株式会社**

胃炎・胃潰瘍治療剤 (薬価基準収載)

**セルベックス<sup>®</sup>**

カプセル 50mg / 細粒 10% (テプレノン製剤)

Eisai エーザイ

